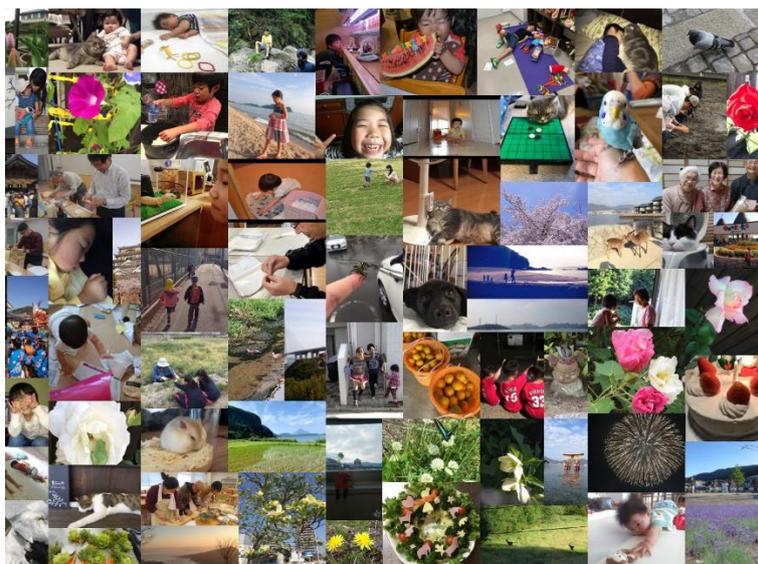


一般社団法人 広島県作業療法士会
第 25 回広島県作業療法学会
【Web 発表の部】

抄 録 集



日々を慈しむ
—かくてもあられけるよ—

開催日:令和 2 年 5 月 31 日

【セッション 1】

テーマ1:日々を支える介入プログラム

1. プランターでの家庭菜園再開に向け、姿勢制御に着目してアプローチした症例
佐々田 由喜(社会医療法人清風会 五日市記念病院)
2. 自動拳上域の獲得が可能であった腱板修復術後再断裂を呈した一例
～肩甲胸郭関節の可動性・支持性の重要性～
平石 明日香(浜脇整形外科リハビリセンター)

テーマ2:生活・ライフワークバランス

3. 急性期病院における運転シミュレーターを活用した自動車運転支援の一症例
森松 千夏(翠清会 梶川病院)

【セッション 2】

テーマ3:地域の課題・その他

4. 外国人労働者の労働災害治療における問題の特徴
深江 亜希子(医療法人社団楓会 林病院)
5. 竹原市における通所型サービス C 事業の取り組みについて
三宅 神奈(安田病院)

テーマ 4:失敗から学ぶ

6. 手指腱損傷後のリハビリテーションで留意すべき兆候 –腱再断裂例からの検討–
上田 章雄(医療法人社団楓会 林病院)

プランターでの家庭菜園再開に向け、姿勢制御に着目してアプローチした症例

佐々田 由喜

社会医療法人 清風会 五日市記念病院

Key words:意味のある作業,姿勢制御

脳梗塞(半卵円中心,橋左傍正中中部)を呈した 70 歳代の男性に MTDLP を活用し,意味のある作業として「家庭菜園の再開」を合意目標に定め,姿勢制御に主眼を置きアプローチを行った。家族構成は 7 人暮らしでキーパーソンは妻。家屋状況は戸建て,自営の治療院を営んでいる。趣味はプランターでの家庭菜園であった。環境特性上,高さ 40cm,縦幅 10cm のブロック塀の上で作業を行う必要があり,それを妨げている要因に橋網様体脊髄路の機能不全による姿勢制御能力の低下が挙げられた。

そこで肩甲帯・体幹のアライメント調整を図り,座位・立位にて骨盤の選択運動を促した。その後,模擬練習として,50cm 台の昇降や,その上での高所リーチ,巧緻動作を促した。最終的に片脚立位が左 10 秒,右 12 秒に延長し,MTDLP における合意目標の実行度,満足度共に向上し,自宅退院となった。

自動挙上域の獲得が可能であった腱板修復術後再断裂を呈した一例

～肩甲胸郭関節の可動性・支持性の重要性～

平石 明日香

浜脇整形外科リハビリセンター(外来)

Key words:肩腱板損傷,運動機能,日常生活機能

【目的】今回,腱板大断裂術後に自動挙上で代償動作著明である症例を経験した。介入後再断裂を認めたがその後の改善が可能であった。以下に文献的考察を交えながら報告する。

【症例と経過】症例は 70 代男性,棘上筋,棘下筋の大断裂により当院にて鏡視下腱板修復術が施行された。可動域訓練は他動を術後 2 日,自動を術後 6 週経過より開始した。自動挙上開始時の挙上角度は 60°であった。円背姿勢により肩甲骨代償過剰にみられた。肩甲胸郭関節の可動性,支持性を高めるため,僧帽筋および前鋸筋強化と肩甲帯ストレッチをアプローチとして行った。術後 6 か月で,MRI にて棘上筋の部分再断裂を認めた。このとき,自動挙上角度は 90°であり,継続してアプローチを行った。

【結果】術後 7 か月経過で挙上角度は 110°に改善した。

【結論】上肢挙上時の不良姿勢および代償に対する肩甲胸郭関節へのアプローチは,腱板術後再断裂例に対しても有用である。

急性期病院における運転シミュレーターを活用した自動車運転支援の一症例

森松 千夏

翠清会 梶川病院

Key words:自動車運転,リスクマネジメント,職場復帰

【背景】高齢者や高次脳機能障害を持つ者が引き起こす交通事故が社会的問題となっており,OTR が自動車運転支援に関わるが増えている。

【目的】運転のリスクについて一緒に振り返る手段として運転シミュレーター(以下 DS)が有効であったためその経過を報告する。

【方法】事例は注意障害と視野障害があったが運転再開にリスクを感じておらず OTR とのリスク認知にズレがあると考えられた。安全に運転が可能であるか DS で評価を行った。

【結果】DS を通して視野障害を自覚し同時処理が困難になっていることや,徐々に改善してきていると発言があった。運転適性相談後に復帰するという方針に自ら方針転換し職場と調整をすることになった。

【結論】急性期であっても DS を通してリスクコミュニケーションを行うことができれば,自身が運転のリスクを認識する事ができ,安全な自動車運転能力を再獲得するための気づきや運転を諦めなければならない気づきを得られると考えられる。

外国人労働者の労働災害治療における問題の特徴

深江 亜希子

医療法人社団楓会 林病院

Key words: コミュニケーション, 職場復帰, 国際交流

日本国内において従事する外国人労働者の増加に伴い、昨今当院でも外国人の労働災害(以下、労災)受傷者の治療機会が増加してきている。今回、外国人の労災治療における特有の問題を経験することが出来たのでその報告をする。

日本人の治療との違いを実感した部分を以下に示す。第1に言語の問題によりコミュニケーションの難しさがあった。第2に早期復職の希望が強く、復職管理に配慮する必要があった。彼等は休職に対するの抵抗があり、経済面や強制帰国への不安の訴えがあった。第3に治療に対する考え方(医療制度等)に違いがみられ、通院の確保等が難しかった。

対応として、会社職員や通訳の同行の際に状態やリハビリの説明を多く行い理解を得られるようにした。また医師と相談し通院頻度や早期復職の調整を頻回に行った。外国人労災者の増加に伴い、リハビリでも言語や文化、早期復職に向けての配慮、対応等が今後さらに必要となると考えられた。

竹原市における通所型サービス C 事業の取り組みについて

三宅 神奈

安田病院

Key words: 介護予防, 自立生活, 地域リハビリテーション

【背景・目的】広島県では通所型サービス C(以後通所 C)を取り組む市町が増えており、事業所への委託型が多い中、竹原市は平成 30 年度より市が中心となり事業を行っている。行政が中心となった事業の取り組みを報告する。

【方法】期間は年度 2 クールで 1 クール 14 回。週 1 回 2 時間。利用者は 1 クール約 15 名。スタッフは市保健師 2 名、サポートセンター療法士 2 名、看護師 1 名。その他栄養士、歯科衛生士が参加した。内容は通いの場で行う体操を中心に、目標に応じた個別メニューや栄養、口腔の取り組みを行った。事前に自宅へ訪問し、自立支援型ケア会議を行った。

【結果・結論】対象者 24 名中通所 C 終了後、介護予防事業へ移行の方が 18 名だった。体力、生活面、社会性の向上も図れる結果となった。利用者が地域へ戻る力を引き出せる事業であると感じ、介護予防事業だからこそできる自立支援、重度化予防を今後も考えていきたい。

手指腱損傷後のリハビリテーションで留意すべき兆候 －腱再断裂例からの検討－

上田 章雄

医療法人社団楓会 林病院 リハビリテーション科

Key words: ハンドセラピー, 手指屈筋腱損傷, 患者教育

手指腱損傷後のリハビリテーションは早期から実施され、リスク管理として患者教育を実施しながら慎重に進めるが、腱再断裂をきたす症例がある。腱再断裂症例の経過から、腱再断裂を予防するために留意すべき兆候を報告する。

症例は 60 代男性。左正中神経断裂による正中神経麻痺に対して長掌筋腱を短母指伸筋腱に移行することによる母指対立再建術を受け、術後 15 日後から療法士管理下での自動運動を実施した。この段階で母指運動は橈側外転 60 度、掌側外転 60 度であり、術後早期から対立動作は良好であった。術後 22 日目に退院、外来で初めて来院時に対立困難との訴えあり、縫合腱の再断裂が明らかになった。自宅での手の使用で縫合腱が再断裂したと考える。

このことから腱の回復段階に不相応な程、良好な手指運動が可能な場合は再断裂に対する注意を要するかもしれない。腱の回復段階に沿った再断裂の危険性についての患者教育の重要性を改めて学んだ。